

こんぺいとう通信



教室のみなさん、こんにちは (^o^)
 11月も半ばを過ぎ、ようやく冬らしい寒さが訪れましたね。教室でも、年賀状づくりを始める方々が増えてきました。今年もあと1カ月余り。悔いの残らないよう、大切に日々を過ごしていこうと思います。と、毎年思います (^_^)

今、教室には大き目の液晶テレビが置いてあります。テレビとは言っても、放送は映りません。地デジチューナーを内蔵していないからです。

実は最近、自宅でテレビを購入したのですが、それまで使っていた古い32インチのテレビが余ってしまいました。古い製品で番組も見られないし、かと言って捨てるのもったいないし……で、使い道を考えた結果、教室のパソコンとつなぐことにしました。普段使いのモニターとしてワードやエクセルを操作するには、さすがに大きすぎて使いづらいですが、DVDやYouTubeで動画を見たり、写真を鑑賞するにはとても役立っています。

みなさんがお使いのパソコンも、よほど古いデスクトップパソコンでない限り、モニターには液晶が使われているでしょう。そのことからわかるように、液晶はパソコンととても相性がよいのです。

ただし、液晶テレビとパソコンにつなぐ液晶モニターとでは、やや性格が異なります。

テレビは動くものを映すために、「応答速度」という性能が重要です。この性能が低いと、例えば動きの速いスポーツ中継などを視聴したときに、残像が目立ってしまいます。そのためテレビのカタログでは、液晶の応答速度の速さがアピールされています。「倍速液晶採用！」などと書かれているのがそれです。その点、パソコンでは文字や写真などの“動かない”データを扱うことが多いので、応答速度はテレビほ

ど重要ではありません。一方で、パソコンでは「解像度」という要素が重要な意味を持ちます。解像度というのは、一言でいうと画面のきめ細かさを表しています。解像度が高いと、画面上により多くの情報を映し出すことができます。エクセルの画面を表示させたときに、同じ画面サイズであれば、解像度が高いモニターの方が多くのセルを表示することができるのです。その代わりに、表示される文字などは小さくなってしまいます。そこで、解像度の高いモニターで内容を大きく表示させる設定に変更すると、今度は画面がぼやけてしまうのです。その点、テレビでは解像度が多少低くても、視聴する上であまり問題にはなりません。とはいえ、最近ではパソコンでビデオを再生する機会が増えたりする一方で、テレビはハイビジョン全盛になり高解像度のテレビが主流になっており、両者の垣根は取り払われつつあります。つまりテレビもモニターも、どちらも高性能になっているということですね。

たいいていの液晶テレビには、パソコンと接続するための「アナログRGB」という端子（つなぎ口）が付いています。これを使えば、ノートパソコンを大画面で楽しむことができます。これに加えて、最近のテレビとパソコンであれば、「HDMI」という端子が付いています。これなら、ケーブル1本で映像も音声もデジタルでつなぐことができ、より品質の高い内容を楽しむことができますよ。

さて、教室の液晶テレビ。いろいろ楽しめるんですよとは書きましたが、さすがに私も、仕事場ででビデオを見たりと遊んでばかりいるわけにもいきません。というわけで、実際には“話のタネ”として大活躍してくれていますよ。

